

科目名	インターンシップⅡ	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学科	□必修 ■選択	
			法律学科	□必修 ■選択	
英文表記	Internship II	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年		
		開講期間	□前期 □後期 ■通年 ■集中		
ふりがな	むらなかたかし・わたなべたけし	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	村中孝司(経済)・渡部毅(法律)	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	就業体験を通じて、職業の実際を学ぶ。				
到達目標	就業体験を通じて、働く意義、および自分の職業適性に関する理解を深める。				
授業概要	本講義は、講義（事前・事後指導）と、就業体験によって構成されている。このうち、就業体験では、実際の現場に出ることになるので、働くということ、および自分の職業適性について直に学び、その理解を深める。また、講義においては、働くにあたって必要なビジネス・マナーなどを学習して、就業体験への心構えをもつとともに、卒業後の将来設計について改めて見つめなおす。				
授業計画					
第1回	ガイダンス	インターンシップとは何か、企業人として働くとは何か			
第2回	事前指導①	インターンシップの心構え、履歴書、自己紹介文			
第3回	事前指導②	ビジネス・マナー、挨拶と姿勢、言葉遣い			
第4回	事前指導③	事前準備と当日の心得			
第5回～ 第26回	インターンシップ実習（40時間）				
第27回	事後指導①	就業体験の振り返り、就業体験の反省			
第28回	事後指導②	就業体験を活かした討論、コミュニケーション			
第29回	インターンシップ成果報告会①（Aグループ）				
第30回	インターンシップ成果報告会②（Bグループ）				
第31回	定期試験				
授業時間外の 学習	常に社会人としてのマナーを意識して、大学生活を過ごすこと。新聞やニュースを毎日確認し、社会の動きを把握しておくこと（3時間程度必要）。 半年後には就職活動が始まります。準備を進めなければなりません。				
履修条件 受講のルール	この授業では、企業等に少なくとも5日間、インターンシップ実習を行います。実習中はどのような理由があっても欠席することはできません。事前指導、事後指導などの講義を含め、原則としてすべてスーツ着用です。遅刻、無断欠席は、履修登録を取り消したものとみなします。適宜資料を配布しますが、欠席した学生には配布しません。 また、この科目は3年次対象です。また、この科目を本年度、履修登録した学生は、インターンシップⅠを同一年度内に履修することはできません。 授業には筆記具は必須である。教科書のほか、ノート（ルーズリーフ可）を必ず持参すること。 実習期間が4日以下の企業等の場合は、この授業を履修することはできません。 スーツ着用です。				
テキスト	講義中に紹介する。				
参考文献・資料	古閑博美編著『インターンシップ―職業教育の理論と実践』学文社(2001年)				
成績評価の方法	試験（20%）、実習での成果（50%）、授業中の課題作成・報告会での発表（30%） 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は、欠席扱いとします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が充分であるかを確認するため、授業中に小テストを行います。 ・レポート課題は授業内又は掲示板で指示します。				
オフィスアワー	各学科の担当教員に直接尋ねること。				

成績評価の基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	就職希望先で就業体験をしましょう！